

宮城県商工区地中小企業景況調査報告書

2020年4月～6月期

目次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

2020年7月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

2020年4月～6月

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内10商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、
利府松島商工会、くろかわ商工会、加美商工会、
遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、
石巻かほく商工会
- (2) 対象企業数 150企業
- (3) 回答企業数 148企業

2. 調査対象期間

2020年4月～6月期を対象として、調査時点は2020年6月1日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 2
建 設 業	2 6
小 売 業	4 4
サービス業	4 6
合 計	1 4 8

5. そ の 他

本報告書中のD Iとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期(2020年4月～6月期)の調査において、産業全体(全産業)の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より△26.1ポイントの悪化で△66.0(前期△39.9)となった。産業別にみると、製造業が△78.1(前期△20.7)と△57.4ポイント悪化、建設業で△30.8(前期△34.7)と3.9ポイント改善、小売業で△74.9(前期△67.5)と△7.4ポイント悪化、サービス業では△68.9(前期△28.9)と△40.0ポイントの悪化となった。

来期見通しについては、産業全体(全産業)としては改善の見通しである。産業別では、製造業、サービス業で改善、小売業で横ばい、建設業で悪化の見通しである。

表一 業況D I の状況と来期見通し (前年同期比・D I)

業種	前期	今期	来期見通し
全産業	△ 39.9	△ 66.0	△ 61.7
製造業	△ 20.7	△ 78.1	△ 56.1
建設業	△ 34.7	△ 30.8	△ 42.4
小売業	△ 67.5	△ 74.9	△ 74.9
サービス業	△ 28.9	△ 68.9	△ 63.6

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業では18.7%で前期比12.2ポイント増加、建設業では15.4%で前期比横ばい、小売業でも6.8%で前期比横ばい、サービス業では10.9%と前期比6.7ポイントの増加であった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べ製造業、建設業、小売業で減少、サービス業では増加となっている。

表二 設備投資の状況と来期計画 (企業割合・%)

業種	前期	今期	来期計画
製造業	6.5	18.7	15.6
建設業	15.4	15.4	7.7
小売業	6.8	6.8	2.3
サービス業	4.2	10.9	15.2

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2020年6月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期(2020年3月調査)と比較して、製造業が△30ポイント悪化のマイナス45、非製造業は△25ポイント悪化のマイナス26だった。先行きは製造業、非製造業共に今期に比べ悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では全業種で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業で全国以下・東北以上、建設業・小売業・サービス業で全国・東北以下であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 38.3	△ 71.1	△ 42.0	△ 81.0	△ 16.1	△ 71.8
建 設 業	△ 10.9	△ 35.8	△ 19.4	△ 39.8	△ 27.0	△ 50.1
小 売 業	△ 42.5	△ 71.2	△ 57.3	△ 74.6	△ 72.8	△ 81.9
サービス業	△ 31.8	△ 79.9	△ 32.5	△ 81.8	△ 27.7	△ 84.7

② 採 算

宮城の今期の採算D Iも、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、全業種で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、製造業では全国・東北以上、建設業で全国以下・東北以上、小売業・サービス業では全国・東北以下であった。

表－4 採算の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 35.8	△ 63.6	△ 45.9	△ 68.5	△ 35.4	△ 56.2
建 設 業	△ 14.1	△ 33.1	△ 26.6	△ 39.2	△ 19.2	△ 34.7
小 売 業	△ 38.7	△ 62.7	△ 50.2	△ 67.6	△ 59.0	△ 77.3
サービス業	△ 32.5	△ 72.0	△ 38.8	△ 73.5	△ 32.7	△ 75.6

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2020年7月～9月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で15.6ポイントの改善、建設業で15.4ポイントの改善、小売業で4.5ポイントの改善、サービス業でも32.5ポイントの改善の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で若干の悪化、建設業で△11.5ポイントの悪化、小売業で△2.2ポイントの悪化、サービス業では16.9ポイントの改善見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国で改善、宮城でも改善、採算では全国で改善、宮城で若干の悪化の見通しとなった。建設業では売上は全国で悪化、宮城で改善、採算では全国・宮城で悪化の見通しとなった。小売業では売上は全国・宮城で改善、採算は全国で改善、宮城で悪化の見通しとなった。サービス業では、売上は全国・宮城で改善、採算でも全国・宮城で改善の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 71.1	△ 69.9	△ 71.8	△ 56.2
建設業	△ 35.8	△ 43.7	△ 50.1	△ 34.7
小売業	△ 71.2	△ 70.2	△ 81.9	△ 77.4
サービス業	△ 79.9	△ 68.6	△ 84.7	△ 52.2

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 63.6	△ 62.5	△ 56.2	△ 56.3
建設業	△ 33.1	△ 39.7	△ 34.7	△ 46.2
小売業	△ 62.7	△ 61.7	△ 77.3	△ 79.5
サービス業	△ 72.0	△ 63.4	△ 75.6	△ 58.7

2. 県下産業別の景況

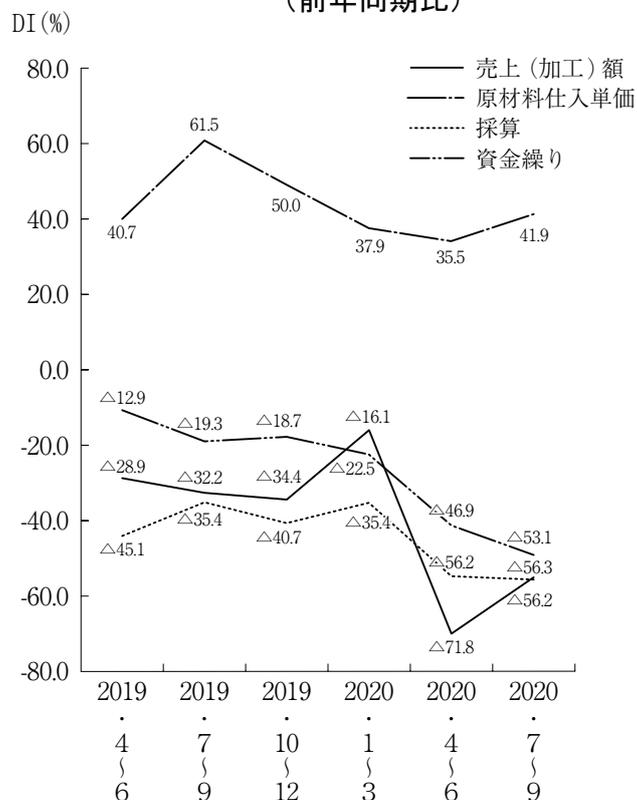
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△71.8（前期△16.1）となり△55.7ポイント前期より悪化、採算D Iは今期△56.2（前期△35.4）で△20.8ポイント悪化、資金繰りD Iでも今期△46.9（前期△22.5）で△24.4ポイントの悪化となった。

原材料仕入単価は今期 35.5（前期 37.9）と△2.4ポイント下落した。

図 1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



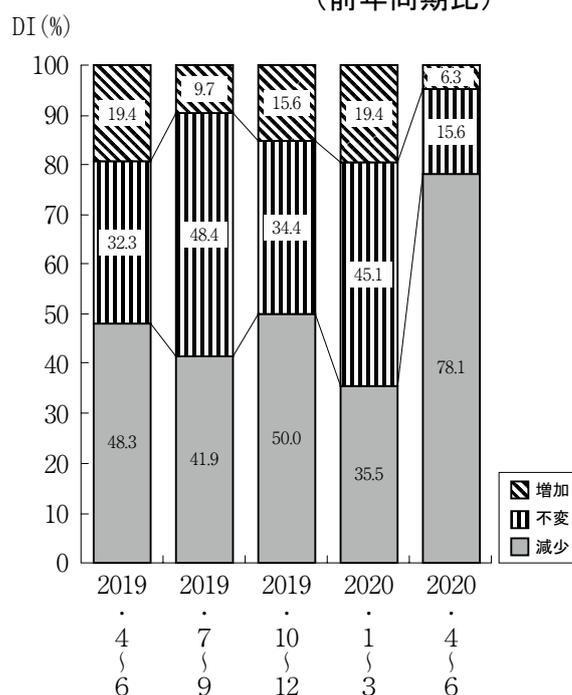
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工) 額

「増加」と回答した企業は、全体の 6.3%（前期 19.4%）と△13.1ポイント減少、「減少」と回答した企業は 78.1%（前期 35.5%）と 42.6ポイント増加した。

その結果、売上（加工）額D Iは△71.8（前期△16.1）となり前期比△55.7ポイント悪化した。

図 1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

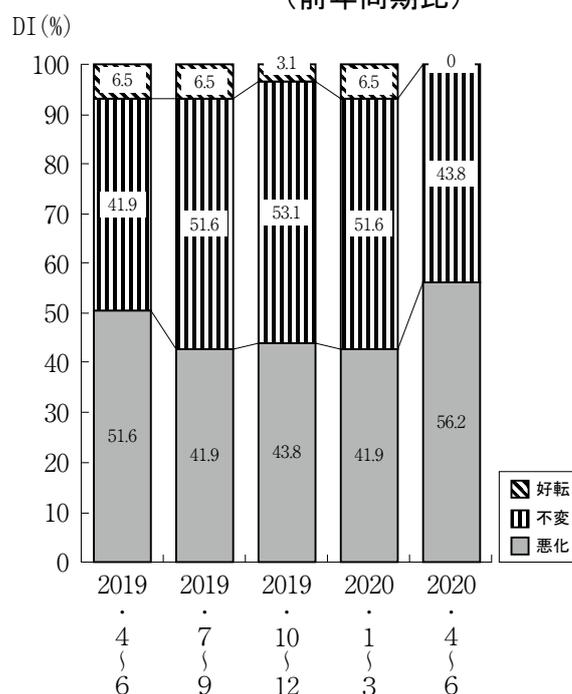


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 0.0% (前期 6.5%) で△6.5 ポイント減少、「悪化」と回答した企業は 56.2% (前期 41.9%) で 14.3 ポイント増加した。

その結果、採算DIは△56.2 (前期△35.4) で前期より△20.8 ポイント悪化した。

図 1-3 採算の状況
(前年同期比)



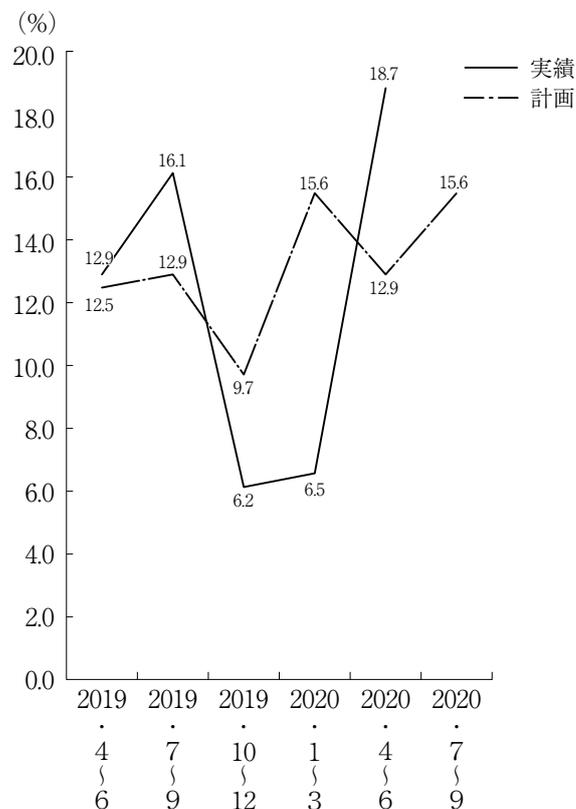
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は全体の 18.7% (前期 6.5%) で、前期と比べ 12.2 ポイント増加した。

その設備内容は、工場建物、生産設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 15.6%で、その設備内容は、土地、工場建物、生産設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設、その他となっている。

図 1-4 設備投資の状況

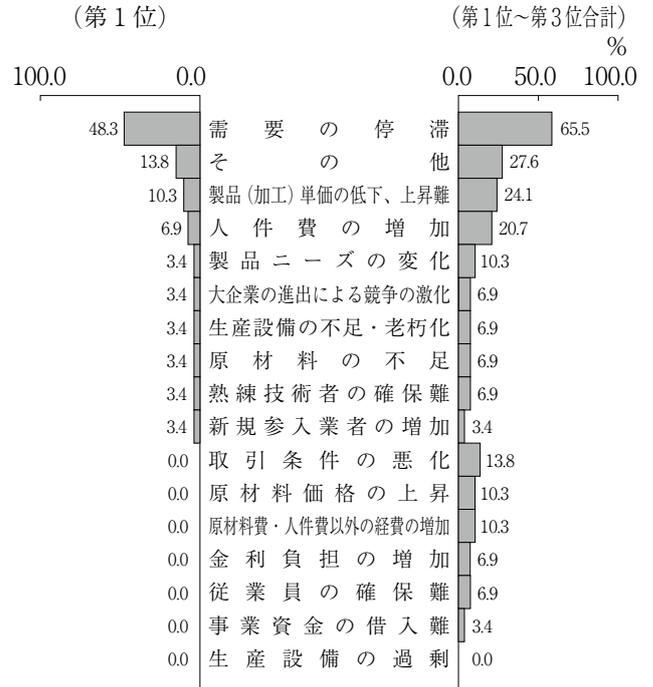


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」で48.3%、次いで「その他」が13.8%、「製品（加工）単価の低下、上昇難」が10.3%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が65.5%（複数回答計、以下同じ）で最上位、次いで「その他」が27.6%、「製品（加工）単価の低下、上昇難」が24.1%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上（加工）額DIでは全地域（全区分）で悪化した。

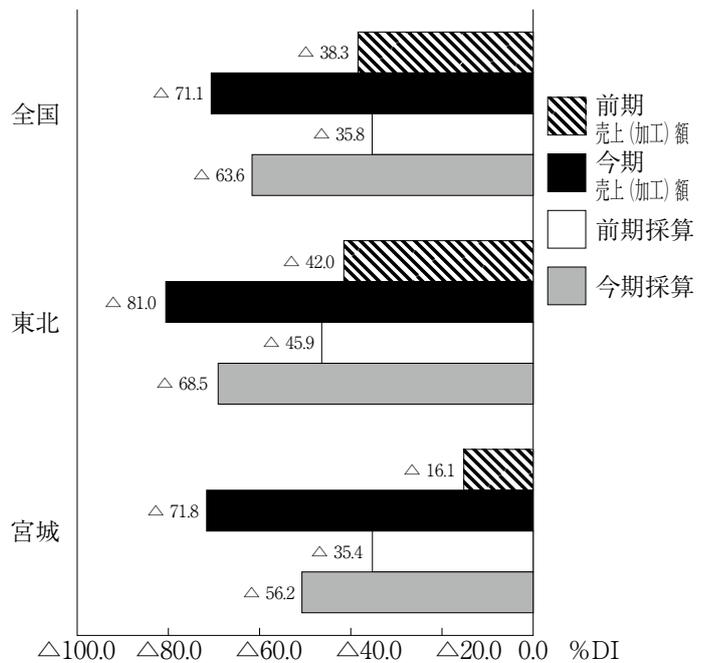
その悪化度は、宮城、東北、全国の順であった。

採算DIの比較でも全地域（全区分）で悪化した。

その悪化度は、全国、東北、宮城の順であった。

本県回答事業者からは「コロナの影響で社会環境・生活の急激な変化が生じ、売り上げが減少」（量製造業）や、「コロナの影響でイベント等が中止、それに付随する仕事が消滅」（印刷業）などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



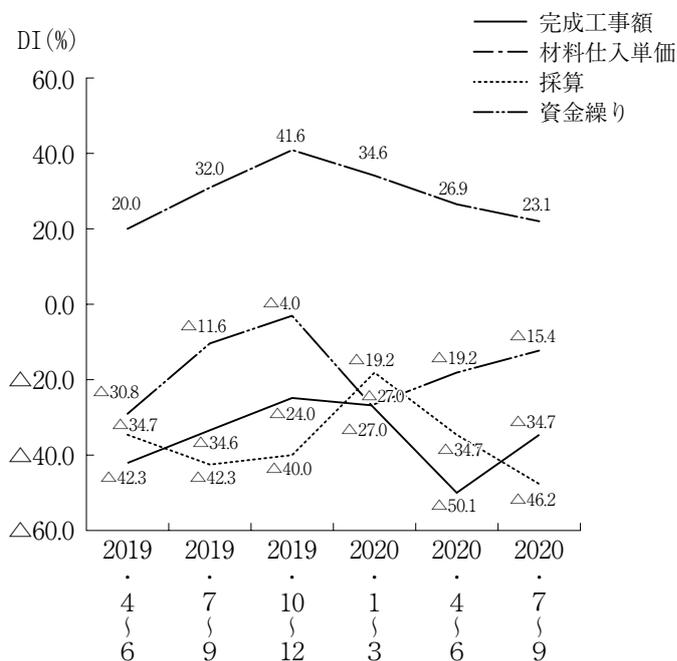
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△50.1（前期△27.0）と△23.1ポイント悪化、採算D Iは今期△34.7（前期△19.2）で△15.5ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△19.2（前期△27.0）と7.8ポイント改善した。

材料仕入単価D Iは今期 26.9（前期 34.6）と前期より△7.7ポイント下落した。

図 2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



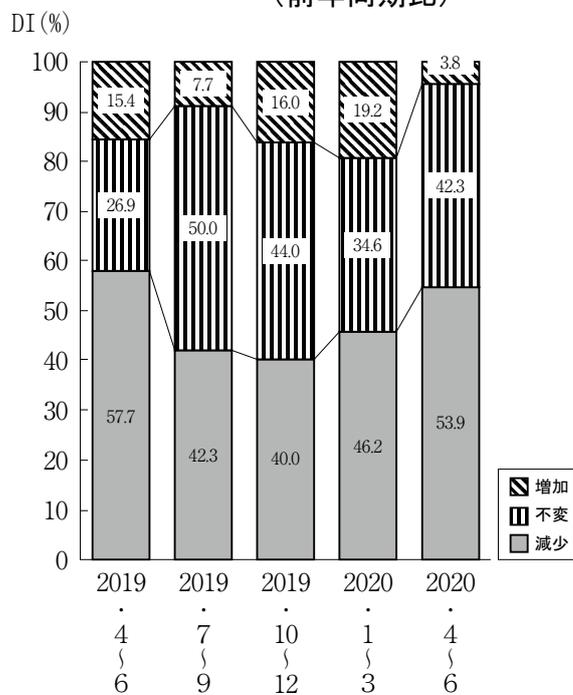
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の 3.8%（前期 19.2%）で△15.4ポイント減少、「減少」と回答した企業は 53.9%（前期 46.2%）で7.7ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△50.1（前期△27.0）と△23.1ポイント悪化した。

図 2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

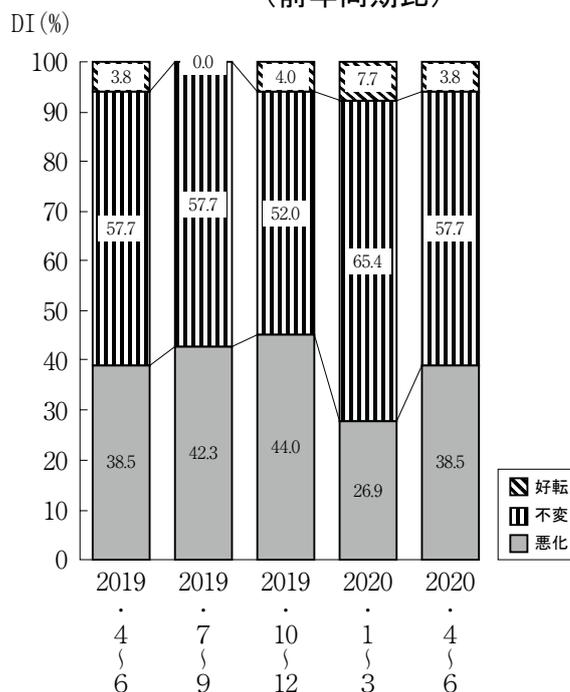


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 3.8% (前期 7.7%) で△3.9 ポイント減少、「悪化」と回答した企業は全体の 38.5% (前期 26.9%) で 11.6 ポイント増加した。

その結果、採算D Iは△34.7 (前期△19.2) と前期より△15.5 ポイント悪化した。

図 2-3 採算の状況 (前年同期比)



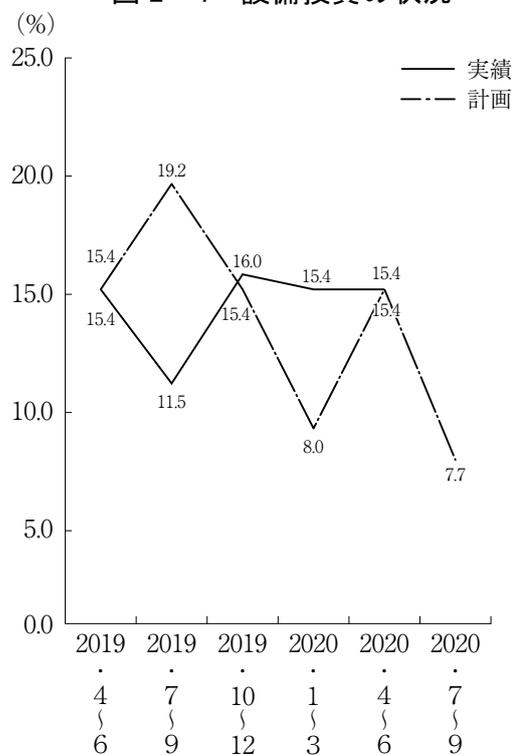
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は全体の 15.4% (前期 15.4%) で、前期比で横ばいであった。

その設備内容は、建設機械、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 7.7% で、その設備内容は、車両・運搬具、付帯施設となっている。

図 2-4 設備投資の状況

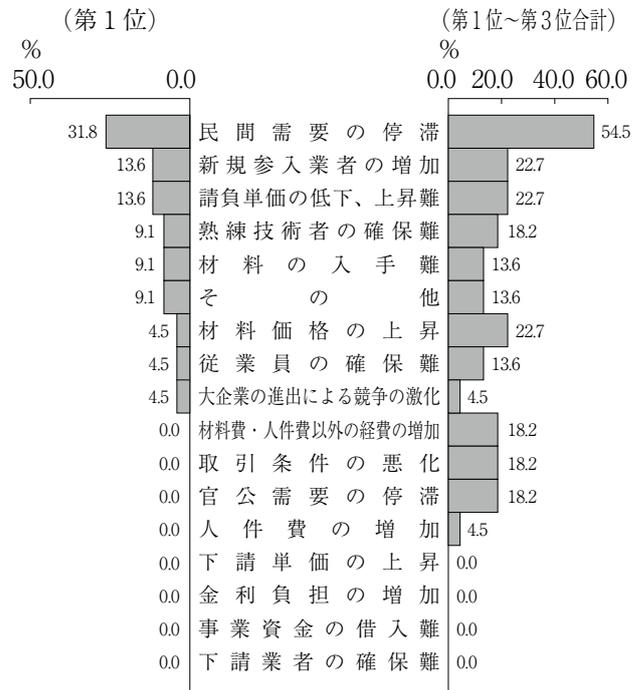


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「民間需要の停滞」が31.8%で、次いで「新規参入業者の増加」と「請負単価の低下、上昇難」が同率13.6%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「民間需要の停滞」が54.5%（複数回答計、以下同じ）で最上位、次いで「新規参入業者の増加」、「請負単価の低下、上昇難」、「材料価格の上昇」が同率22.7%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額DIは全地域（全区分）で悪化した。

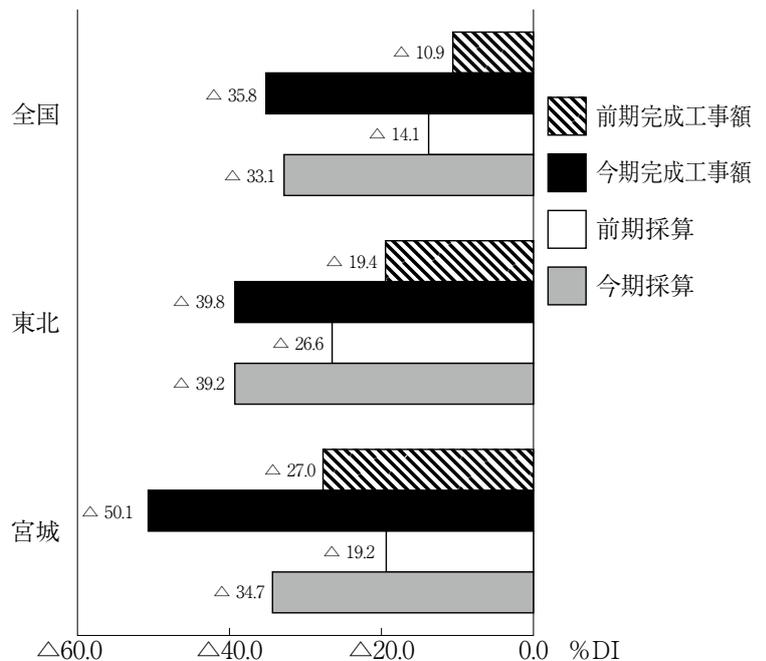
その悪化度は全国、宮城、東北の順であった。

採算DIの比較でも、全地域（全区分）で悪化した。

その悪化度も全国、宮城、東北の順であった。

本県回答事業所からは「現在はコロナの影響が顕著でないが、取引先企業の状況によっては影響が出てくる恐れあり」や「同業者の参入が多く（販売）単価の値崩れが起きている」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）



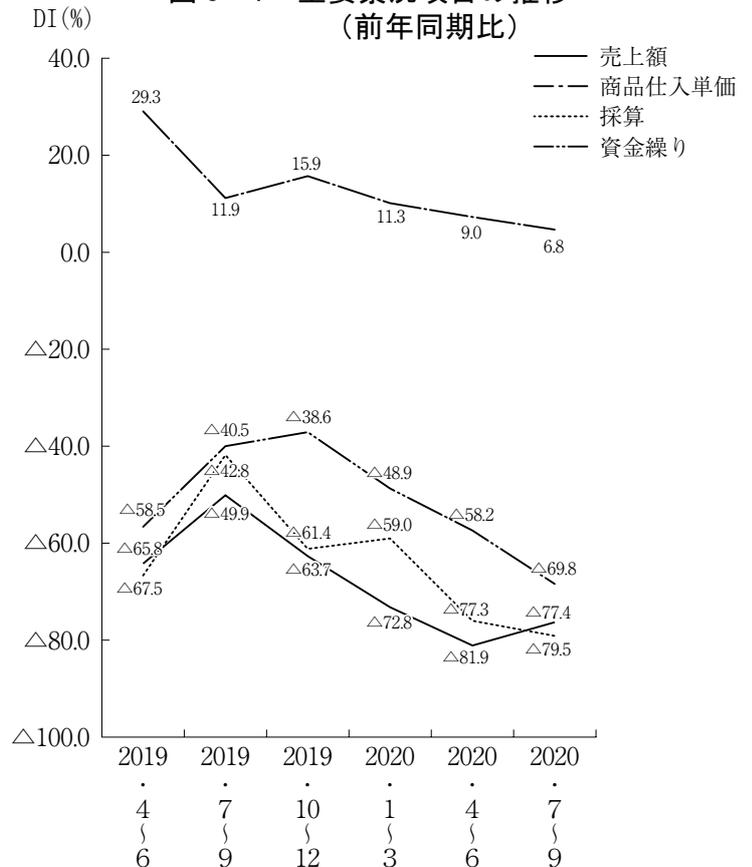
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△81.9(前期△72.8)と前期より△9.1ポイント悪化、採算D Iは今期△77.3(前期△59.0)で△18.3ポイント悪化、資金繰りD Iでも今期△58.2(前期△48.9)で△9.3ポイント悪化した。

商品仕入単価D Iは今期 9.0(前期 11.3)となり、△2.3ポイント下落した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



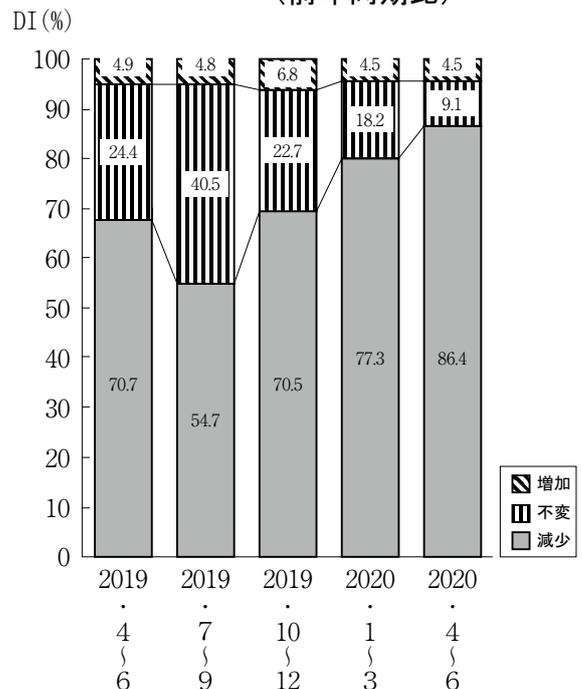
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の4.5%(前期4.5%)で横ばい、「減少」の回答は、今期は全体の86.4%(前期77.3%)で9.1ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは今期△81.9(前期△72.8)と前期より△9.1ポイント悪化した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

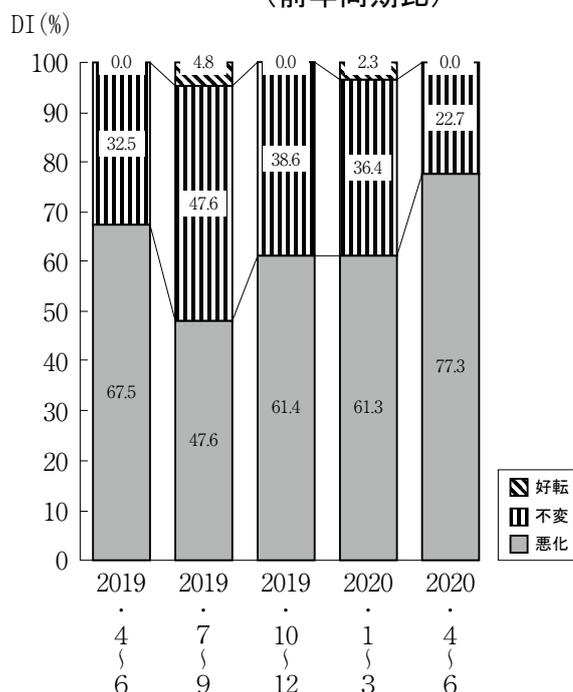


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の0.0%（前期2.3%）と△2.3%減少、「悪化」の回答は、今期は全体の77.3%（前期61.3%）で16.0ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△77.3（前期△59.0）で、前期より△18.3ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
（前年同期比）



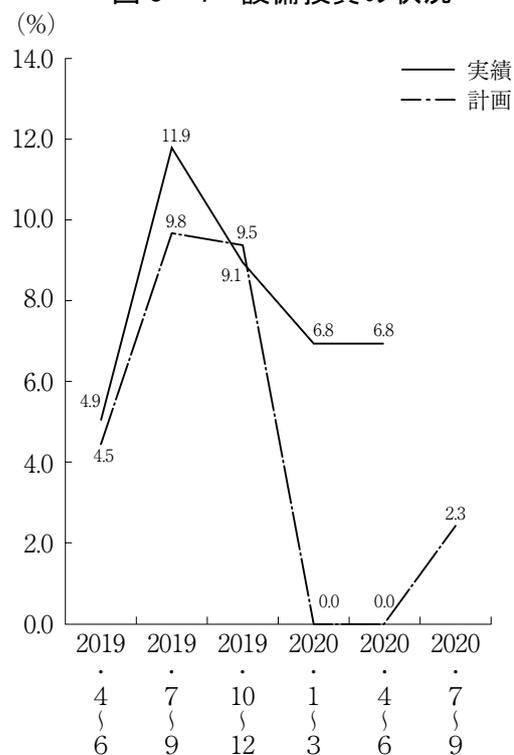
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の6.8%（前期6.8%）で、前期比横ばいであった。

その設備内容は、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の2.3%で、その設備内容は、OA機器となっている。

図3-4 設備投資の状況

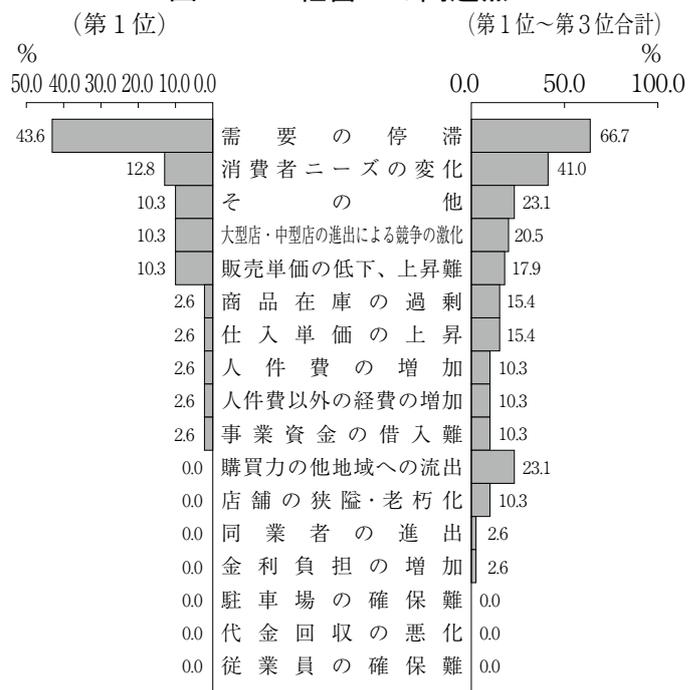


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「需要の停滞」が43.6%で、次いで「消費者ニーズの変化」が12.8%、「その他」、「大型店・中型店の進出による競争の激化」、「販売単価の低下、上昇難」が同率10.3%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「需要の停滞」が66.7%(複数回答合計、以下同じ)で最上位、次いで「消費者ニーズの変化」が41.0%、「その他」、「購買力の他地域への流出」が同率23.1%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DIは全地域(全区分)で悪化した。

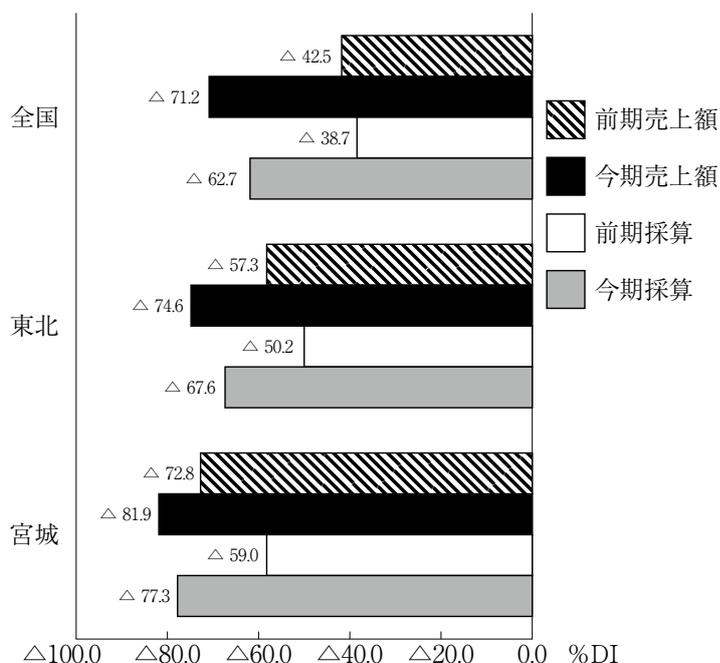
その悪化度は全国、東北、宮城の順であった。

採算DIでも全地域(全区分)で悪化した。

その悪化度は全国、宮城、東北の順であった。

本県回答事業所から「コロナの影響で営業日数が減少、外出自粛により客数の減少で、大変厳しい状況」(靴販売)や「コロナの影響による生活習慣の変化に伴い、ネット販売等の環境整備が重要」(青果販売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額DIは今期△84.7（前期△27.7）で△57.0ポイント悪化、採算DIは今期△75.6（前期△32.7）で△42.9ポイント悪化、資金繰りDIでも今期△57.8（前期△15.6）で△42.2ポイント悪化した。

利用客数DIは今期△84.7（前期△30.4）で△54.3ポイント下落した。

② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の2.2%（前期8.5%）で前期より△6.3ポイント減少、「減少」の回答は今期86.9%（前期36.2%）で50.7ポイント増加した。

その結果、売上（収入）額DIは今期△84.7（前期△27.7）で前期より△57.0ポイント悪化した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)

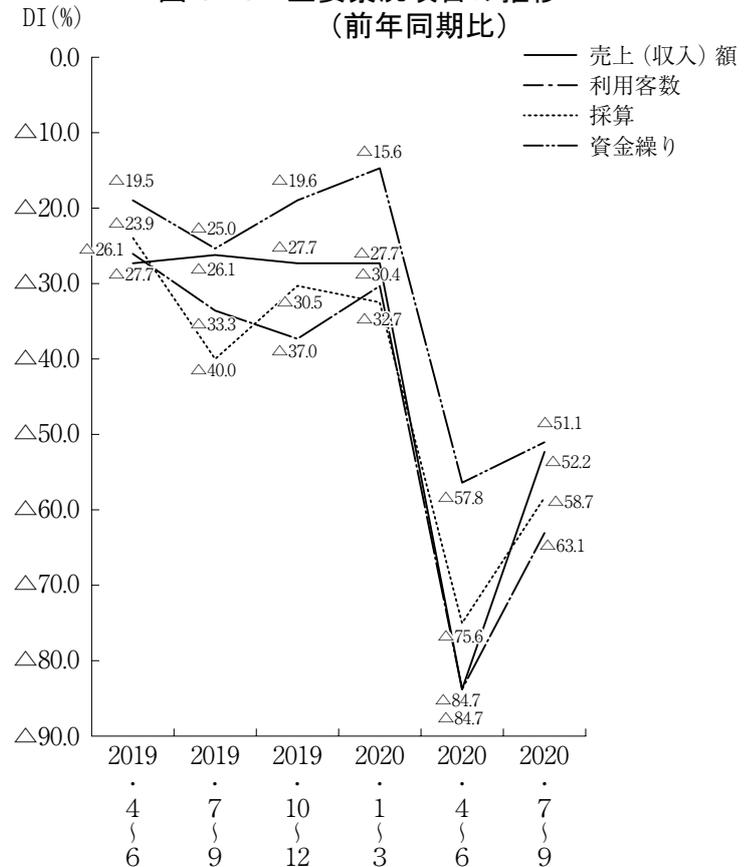
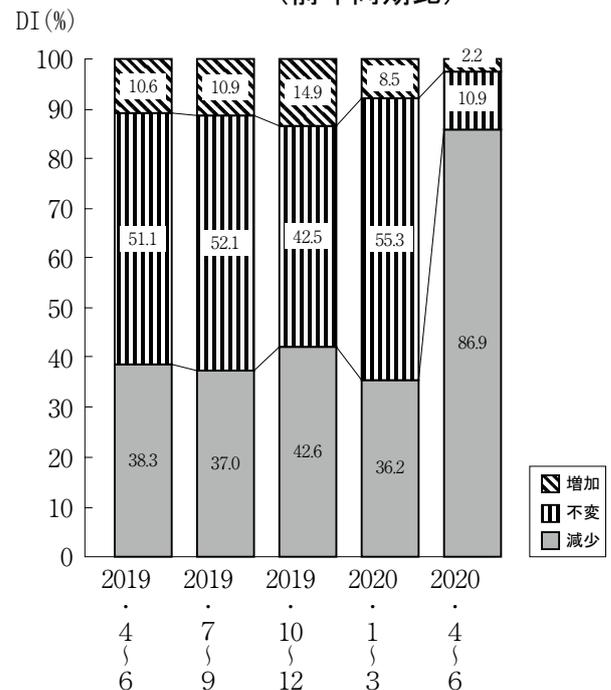


図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

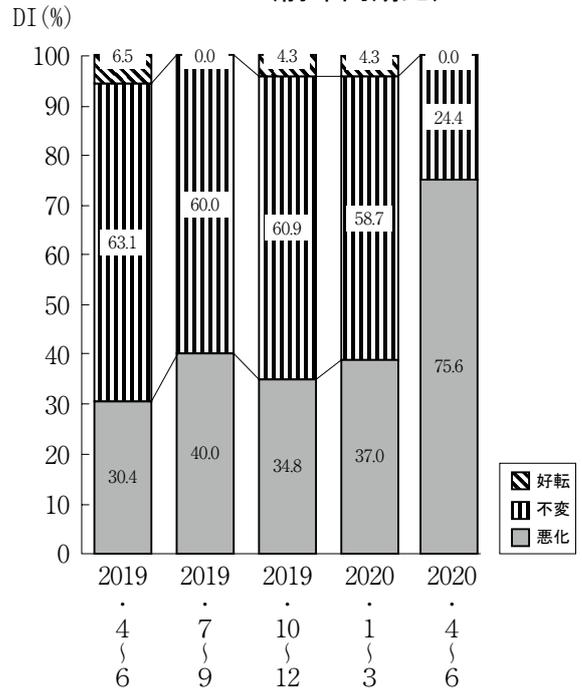


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の0.0%（前期4.3%）で△4.3ポイント減少、
「悪化」と回答した企業は今期75.6%（前期37.0%）と38.6ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△75.6（前期△32.7）で前期より△42.9ポイント悪化した。

**図 4-3 採算の状況
（前年同期比）**



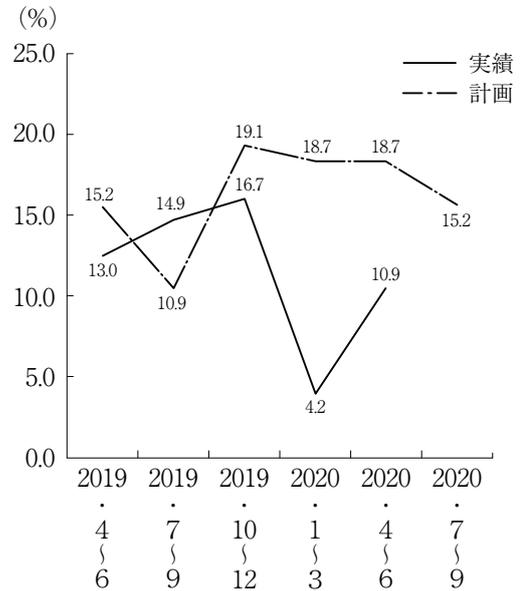
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の10.9%（前期4.2%）で、前期より6.7ポイント増加した。

その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の15.2%で、その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、その他となっている。

図 4-4 設備投資の状況

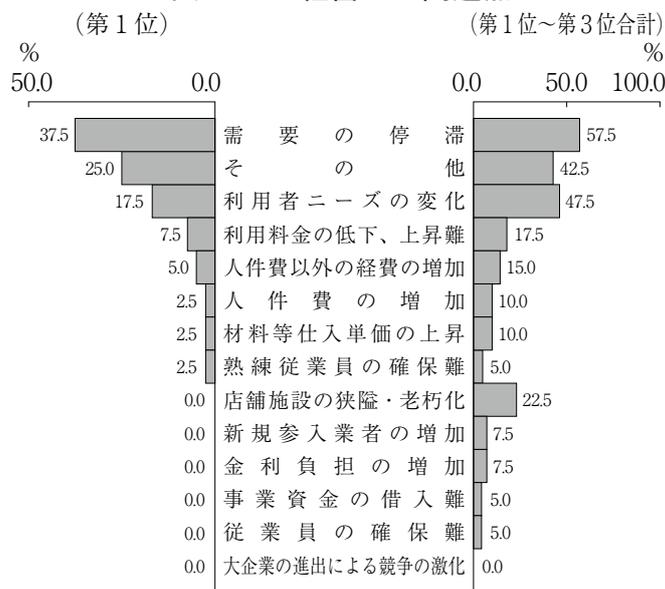


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「需要の停滞」が37.5%で、次いで「その他」が25.0%、「利用者ニーズの変化」が17.5%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が57.5%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「利用者ニーズの変化」が47.5%、「その他」が42.5%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上(収入)DIは全地域(全区分)で悪化した。

その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

採算DIでも、全地域(全区分)で悪化した。

その悪化度は宮城、全国、東北の順であった。

本県回答事業所からは「コロナの影響による客のニーズ変化への対応が必要」(宿泊業)や「コロナの影響の中で新たなサービスを開拓し、更に面白い店づくりへ」(飲食業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

